

「婦人像」
1937年、油彩、カンバス
45・8㌢×38・0㌢

長谷川利行（1891～1940年）

大川美術館では10日から、企画展「ベン・シャーンーつたえる手」を開催中です。同時開催としてコレクションの展示室では、「松本竣介と同時代の画家たち」と題して松本竣介の画友たちの作品をご覧いただいています。

その一人が、この長谷川利行です。利行は、東京では住所も定まらずデカダンスな生活を続け、最後は「行路病者」として生涯を終えています。

流浪の画家といえる利行と竣介の間で交流があったと聞くと意外な印象です。2人は年齢が20歳も違い、竣介は「優等生」然として、しかもしっかりと家族を守る堅実な画家でした。

そうした対照的な二人ではありましたが、利行の純粋な魂にふれることで、竣介もどこかひかれるものがあったのでしょう。（田中）

《名画の扉》

大川美術館コレクション展から